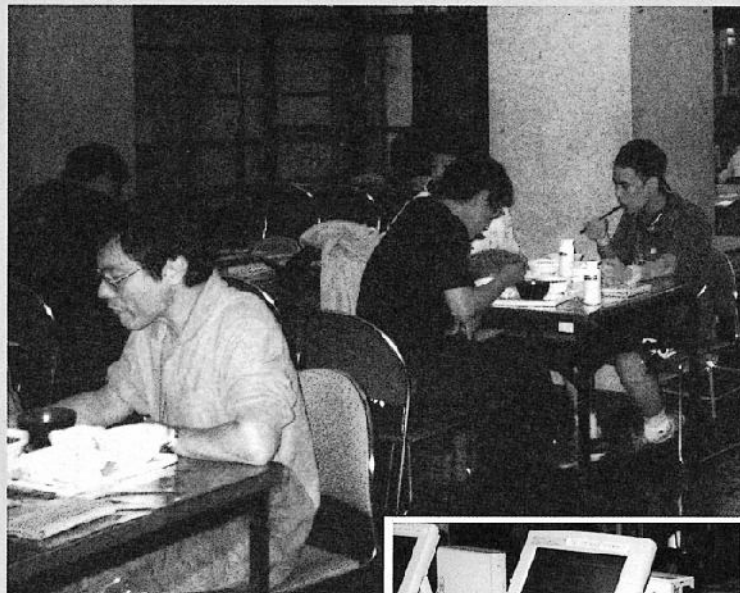
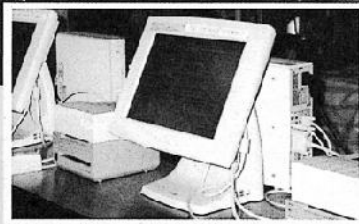




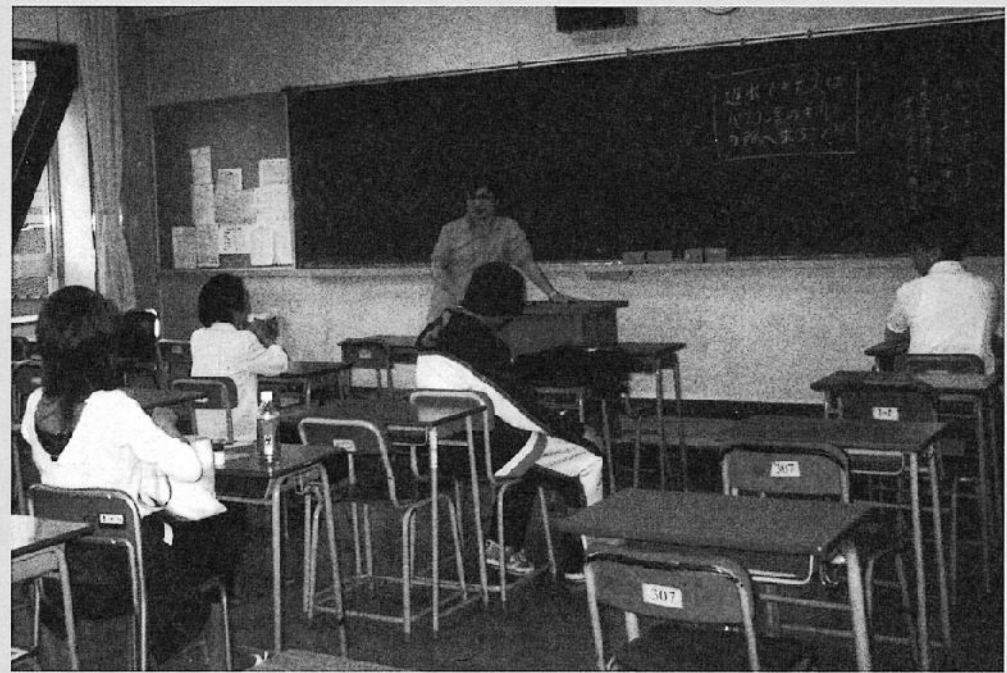
職員室の給湯室



給食室



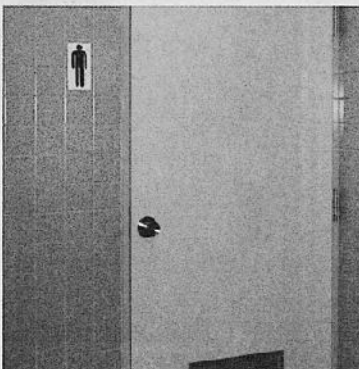
生徒&先生もカードで給食を受け取るシステム



カラフルな校庭



エレベーター



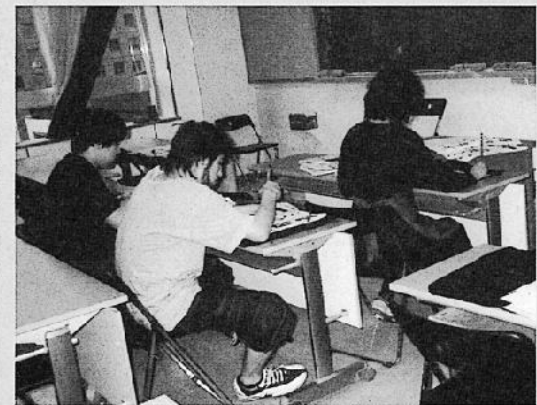
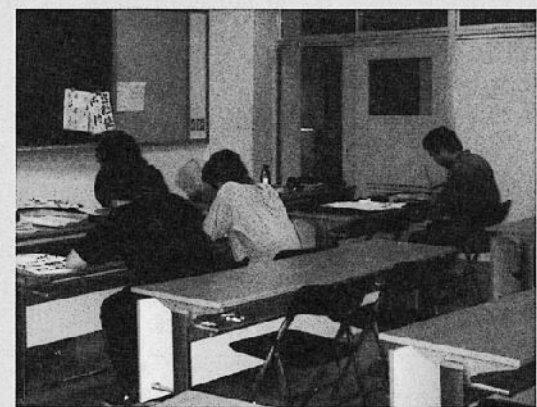
ピンクのトイレ



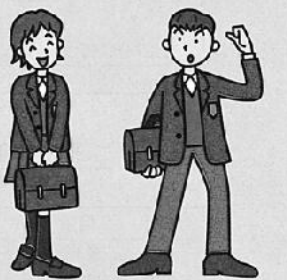
タイムレコーダー



教室内の分別ゴミ箱



母校の授業参観記  
38年卒 山口 英男



四年後に閉校になることが決まっている母校で公開授業があり、一クラス一〇名前後の教室でどんな授業がされているのか訪ねてみた。五月のある日、台風二号の関東接近で午前中は雨、午後からは晴れてまぶしい日差しの中、五時三〇分母校を訪ねた。矢島副校長の案内で各教室に向かう。まずエレベーターで六階に、最初のクラスは英語の授業中で生徒は五名、次のクラスは担当の先生が休みのため自習をしていた生徒は七名、八〇歳の女学生がおられた。美術の教室では切り絵の作品を前にレクチャー。他の生徒は作品の素材を見つけない図書館に向かう。明るい館内に一〇名前後の生徒がいた。次に、書道教室戸田先生と四名の生徒が難しい漢字を書いていた。墨の香りが懐かしい。

六時十五分から給食室、カードシステムの導入で生徒各人がカードを機械に入れ食事を受け取る、何故か牛乳壺の白さが目立った。職員室も見学、室内に冷蔵庫、電子レンジ、ガス台、そこで生活ができるようだ、ただし、家庭科の実習に使用しているとのこと。  
校庭に出るとテニスコート、バスケットコートのカラ色が鮮やかなこと。おセンチ山に登れば、変わらない石の階段が昔を偲ばしてくれた。  
昔に比べて驚いたことは、エレベーターの使用。カードの導入、トイレのドアのピンク色、教室内のゴミ箱に分別用ペットボトル入れ、諸々。  
生徒数から言えば分教場、と思われる教室内だが、勉強をしている姿は昔と変わらない、楽しい学園生活、明るい笑顔がみられた。親の腰をかじっている娘が「高校は遊びに行くところ」と言った。自分は勉強をするためにと思っていたが、おおいに遊び、学び、楽しみ、友達をつくること。四年間学校に行き卒業することが大切な事なのだからと心に思いながら田町駅に向かった。